

西都原考古博物館第2期中期運営ビジョン【令和6年度評価表】

資料5

○評価数値は4段階評価
（内部評価） 個別評価 4…目標を大きく上回った 3…目標を達成できた
2…目標をやや下回った 1…目標を大きく下回った
総合評価 個別評価の平均値(小数点第2位以下四捨五入)
（外部評価） 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要
上記による各委員評価の平均値(小数点第2位以下四捨五入)

(1)調査研究

項目	内 部 評 価					外 部 評 価		*評価の()は前年度
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評 価 意 見		評価
調査研究	論文等の執筆・研究発表等を行ったか。	各学芸普及担当職員 年1回以上	学芸普及担当職員(＋副館長)7人が論文等の執筆13本、研究発表を9本の合計22本を行うなど様々な媒体を活用して研究成果の公表に努めた。	4	3.2	<p>・調査研究に関しては、20周年記念事業等で例年にも増して多忙な中にも関わらず論文執筆や研究発表などを全員で多数行われたことは、大いに評価されるべき事と思います。皆さん方の日頃の努力に敬意を表したいと思います。</p> <p>・西都原古墳群およびその他県内の遺跡調査や出土品の復元・成果展示、台湾や韓国の博物館との交流等、多岐にわたる調査研究活動は十分に評価に値するものだと思います。</p> <p>・副館長をふくめ学芸普及担当職員が全員、研究成果をあげられ発表しているのは大変良かった。</p> <p>・計画していた調査研究は目標を達成し、合わせて、論文等の執筆・研究発表を盛んに行ったことを高く評価します。</p> <p>・古墳群の保護・管理及び顕彰を基本業務としながら、研究の視野を、アジア、国内、本県と広範囲に向け、研究、交流、展示、講演等の多くの成果公表に努めている。職員の方々の資料集や研修等、学ぶ機会を多く与えていただくことを望みたい。</p> <p>・論文誌執筆、研究発表等、活発な研究活動がなされている。研究紀要は考古博のホームページでインターネット上に公開されており、閲覧が容易になった。</p> <p>・学芸普及担当職員による個別研究や論文発表、西都原古墳群の発掘調査・報告書作成、さらに特別展・企画展の企画・準備・実施など多種の業務遂行は大いに評価できる。</p>		3.6 (3.1)
	西都原古墳群の全容を理解するための調査、研究を行ったか。	—	「西都原古墳群史跡整備事業」(令和6年度から令和10年度の5カ年)の初年度として、第3支群に位置する西都原156号墳の発掘調査を行った。(調査面積118㎡) 概要報告として『西都原古墳群発掘調査・保存整備概要報告書(XXVI)』を作成し、諸関係機関へ配布した。	3				
	地中レーダー探査によって、西都原古墳群をはじめとする県内古墳、遺跡の究明を行ったか。	—	西都原古墳群尾筋支群を対象に探査を行った。(探査面積731㎡)。その他、都城市高崎町古墳12号墳、高原町立切遺跡、えびの市灰塚遺跡などの探査を行った。	3				
	調査研究の成果を展示等に反映させ、史跡の保存整備に活かすなど、あらゆる機会を捉えて公開したか。また、研究紀要、図録や報告書等で調査研究の成果を公開したか。	—	研究紀要1冊、図録3冊、発掘調査報告書1冊を刊行し、調査研究成果の公開に努めた。 開館20周年記念プロジェクト「もう一つの船」において、西都原169号墳出土の船形埴輪の復元研究を進め、その成果を展示した。	3				
	国内外の研究者と交流し、最新の研究動向の把握に努めたか。	—	台湾新北市立十三行博物館で行われた「2024新北市国際考古フォーラム」や「2024新北市考古生活フェスティバル」に職員2名が参加した。 3月には台湾宜蘭縣立蘭陽博物館を訪問し、次年度の国際交流展に向けた協議と資料調査を行った。 11月に韓国国立羅州博物館より館長と研究員が来訪され学術文化交流協定の更新(5年間)を行った。当館職員2名が羅州を訪問した。 国内では、「古代歴史文化協議会」の共同研究や「水田稲作比較技術研究プロジェクト」の実験プログラムに参加・協力を行った。	3				

(2)資料収集と保存活用

項目	内 部 評 価					外 部 評 価	
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評 価 意 見	評価
資料収集 保存活用	鉄製品保存処理件数	年50件以上	56点(館内11点、外部委託1点、市町村等からの依頼品44点)の保存処理・X線写真撮影を実施した。	3	3	・資料収集に関しては目標値があるものに関しては目標値を達成できており、着実に実績を残されているものと評価します。 ・丸山遺跡の縄文早期についての発掘調査報告を『研究紀要』に掲載されたのは大変良かった。縄文前期以後についての調査報告も速やかに公表されることを期待している。 ・鉄器・古人骨の点検・整理・保存処理を堅実に進めているのも良い。今後も継続されたい。 ・前回、『年報』運営ビジョンに(2)資料収集と保存活用とされているので、『年報』事業報告のタイトルも、2資料収集ではなく、2資料収集と保存活用、と統一されたほうが宜しいのではないかと申し上げたが、変更されなかった。何か意図があるのだろうか。 ・考古学の成果を、課題と共に特徴的にみせ、来館者に考えてもらう企画の工夫がよくなされていた。タイトルにも、意欲が感じられた。 展示に表現された貴重な内容は、20周年をとおして蓄積された研究やプロジェクトの成果も活かされていると感じた。敬意を表したい。 ・博物館が収蔵する遺物は保存により環境で収蔵・管理されるだけでなく、博物館のホームページの「収蔵品検索」から知りたいデータを容易に見ることができるシステムは素晴らしいが、人骨のなかには写真の掲載が少ないのは残念です。	3.0 (3.1)
	(図書、写真等)収集、分類・登録件数	年1,000件以上	614冊の図書資料を収集したほか、537件について写真資料のデジタルデータ化を行った。	3			
	古人骨を適切に収蔵管理し、データの追加や更新を行ったか。	—	収蔵人骨の点検や補修、クリーニング作業を行ったほか、獣骨等の整理も行った。	3			
	土器、石器について、適切に保管し、活用の幅を広げるために分類と修復を行ったか。	—	保存整備事業により発掘調査された資料の整理作業を行った。また、考古博物館建設に伴い発掘された丸山遺跡の報告を研究紀要で行った。	3			

(3)展示

項目	内 部 評 価					外 部 評 価	
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評 価 意 見	評価
入館者数	入館者数	年12万人 (本館、古代生活体験館)	80,729人(本館70,706人＋古代生活体験館10,023人) 新型コロナ感染拡大の影響が落ち着きを見せ、令和5年度と比較すると約12,000人増となった。今後も広報等に取り組んでいく必要がある。	2		・入館者数に関して、特別展、国際交流展、企画展、コレクションギャラリー展の期間中の入館者数が57,903人で、前年度より増加しており、評価できる。ただ、本館来館者はあまり伸びておらず、通常の来館がないというのは残念である。 ・毎年度、同様のコメントしているが、西都原は、春夏秋冬の花が有名で、多くの観光客が訪れるので、その流れで、西都原考古博物館に足を運んでもらえるような案内表示、環境整備、魅力発信をタイムリーにお願いしたい。 ・展示会Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、20周年記念プロジェクトはよかった。 ・開館20周年で意欲的な展示が企画されたので、入館者数が増えればと思います。ボランティアガイドの利用実績を利用状況に示していただくと良いと思います。 ・来館者数に関して伸び悩んでいる点がやはり気になります。特に20周年記念事業もあってR6年度はより多くの来館者が期待できたところだったので残念ですが、しっかりとその要因が何だったのかを分析し、今後の対策に生かしていく必要があると思います。 ・入館者数の目標値は高すぎるように感じている。交通の便を改善することが困難である現状も勘案する必要があるだろう。 ・通常展示においての独特さと新鮮さは、常に感じています。また、ハンズオンを取り入れた展示には子供たちにも楽しい体験となると思います。 ・企画展示や特別展示は、興味も量的にも適当と感じます。特に、解説者の質問に対する回答は興味深いものです。この事も多くの観客者に知って頂く良いと思います。 ・新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった中で、来場者数も少しずつ増加傾向にある。今後も、PR等を重ねながら、がんばっていただきたい。	
展示	特別展、国際交流展等実施回数	年3回以上	開館20周年記念として、西都原フォトコンテストを開催したほか、展示会Ⅰ～Ⅲ等を開催した。	4			
	特別展においては、県外資料を含めて構成し、日本列島における南九州の地域性に迫る展示を行ったか。	—	展示会Ⅰでは、「海がつなぐ古代世界 対馬・西海・日向」を開催し、3つの地域それぞれの海との関わりを紹介した。	3			
	国際交流展においては、韓国や台湾からの国外資料を含めて構成し、東アジアにおける南九州の位置づけを考える内容の展示を行ったか。	—	展示会Ⅱでは、「土偶の美と縄文の美 東北日本と九州」を開催し、縄文時代の東北と九州の関わりについて紹介した。	3			

展示	企画展においては、主に県内資料で構成し、古代日向の特徴について様々な視点で展示を行ったか。	—	展示会Ⅲでは、「美と権の装身具 玉が映した宮崎の古墳文化」を開催し、宮崎県内から出土した玉類を介し、美装品でありながら権威の象徴でもあったことを紹介した。	3	3.0	<div>・展示に関しては、年齢によって難しいものもあると思う。子供たちにもよくわかるような展示が入るとよりよい(イラスト等を使ったわかりやすい説明もあるとよい)と思う。</div> <div>・令和6年度は企画展にはすべて足を運ぶことができた。中でも「美と権の装身具」は、宮崎の出土品もですが個人的に親しみのある場所の出土品もどれも美しく、古代の人々のセンスの素晴らしさを感じる展示だった。20周年プロジェクト「もう一つの船」は残念ながら拝見できておらず、またぜひ機会があれば拝見したいと思っている。</div> <div>・土器の展示物に触っていいのかが分かりにくいような気がする。</div>	3.3 (3.2)
	コレクションギャラリー展においては、主に館蔵資料で構成し、日々の博物館業務の中から設定されるテーマに沿って情報発信を行ったか。	—	開館20周年記念プロジェクト「もう一つの船」について、2カ年に渡る船形埴輪の復元研究の成果を展示した。	3		<div>・特別展の開会式の後の来賓への説明をお聞きする度に、担当者の熱のこもった説明に聞き入ります。どれだけ熱量を持って企画されているかが伝わります。お疲れ様です。</div> <div>・開館20周年記念「西都原フォトコンテスト」は、工夫ある展示だったと思います。若い方から地域の高齢者まで参加できる内容だったのではないのでしょうか。</div> <div>・「土偶の美と縄文の美」での数々の土偶に、縄文時代の人たちの思いを馳せることができました。収集はもちろん、展示の工夫があったからだと感じます。</div> <div>・夏の特別展が好評だったことに加え、猛暑により屋内施設が選ばれたのも追い風になったのでは。空調設備の能力強化により万全の体制で来館者をお迎えできるようお願いしたい。</div>	
	多角的な視点で南九州を見つめ、考古学に限らず、関連する諸学問や諸分野に関する展示等を行ったか。	—	開館20周年プロジェクト「もう一つの船」の復元研究を外部研究者と共に行之、その成果を「実物資料の接合復元」「模造埴輪の作成」「三次元計測による復元データ」の形で展示・公表した。	3		<div>・展示について、入館者数は目標数を下回っているものの令和5年度比較で12000人増となっているのは評価したいです。特別展は私自身は「土偶と美と縄文の美 東北日本と九州」しか観にゆけませんでした。が、県外の資料と合わせて宮崎(高千穂)の出土品を見ることで宮崎の当時の暮らしや信仰に思いを馳せることができました。なぜ南九州には土偶が出土しないのか、推察が興味深いです。</div> <div>・開館20周年プロジェクト「もう一つの船」も、先日10月4日に見学にうかがった際、展示物の一つとして拝見しました。ほんの少しの小さなかけらから舟形埴輪の復元研究に挑まれたことに敬意を表します。170号埴だけではなく169号埴からも舟形埴輪が出土していることをぜひもっと多くの人に知ってほしいです。</div> <div>・常設展は(アンケートにもあったようですが)見る順番が分かりにくいと感じます。そこは見る人に任せていらっしゃるのかもしれませんが、時々戸惑いました。また展示物の説明が学術的というより詩情的で(そこがセンスの良さかもしれませんが)内容がクリアに頭に入ってきません。また、もう少し説明が欲しいなと思うこともありました。詳細はQRコードを読むんだろうなあと思いながら、めんどくさがり屋の私にはできませんでした。</div> <div>・土偶の美と縄文の美良かったです。美しさを知ることができました。感動ものでした。</div> <div>・入館者はコロナ後増加しているが、交通手段は相変わらず自家用車(79.8%)とレンタカー(9.1%)で9割近く、車の運転ができないと来館が難しい状況が続いている。都会では運転免許を持たない人も多く、個人の県外者や高齢者の来館を容易にする方法を引き続きご検討いただきたい。</div> <div>・</div>	

(4)教育普及

項目	内 部 評 価					外 部 評 価		*評価の()は前年度
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別 評価	総合 評価	評 価 意 見	評価	
生涯学習 の一環と しての教 育普及活 動	講演会、講座の実施回数	年15回以上	24回実施。(内訳は講演会3回、考古学講座4回、体験・実験講座8回、考古博少年団9回)	4	3.2	・生涯学習の一環としての教育普及活動に関して、講演会、考古学講座、体験・実験講座等の実施回数が目標値(年15回)を大きく上回り、昨年度と同様に24回実施していることは、高く評価できる。	3.2 (3.4)	
	古代生活体験メニューの充実を図り、実践的に学べる機会を提供したか。	—	土器・埴輪づくりや勾玉づくり、石器づくり、アンギン編み、ミニ鏡作りを実施している。	3		・講演会や体験講座等、9つも増えており評価できる。体験メニュー等も工夫されており、年齢の低い子供たちも取り組みやすい。低学年の子供たちや障がいのある子供たちがより取り組みやすい体験等も増えるとありがたい。		
	見学会や現地説明会など関連活動を実施したか。	—	特別展・国際交流展開会式後の内覧会、ボランティアスタッフ向けの研修会、発掘調査の成果を考古博講座で実施した。	3		・ミュージアムショップのインスタグラム発信を楽しく拝見している。古墳ケーキ、船形蚊取り線香置き作りなどの企画もおもしろい。カフェの「はにわカレー」もおいしくかわかった！ ・こちらで開催されるコンサートもレベルが高く、素晴らしい企画だと思う。機会をつくって訪れたい。		
学校教育 との連携	学校教育の中で博物館を活用するための支援を行ったか。	—	学校団体利用時の諸注意、西都原古墳群や展示に関する概要説明に加え、学校毎にその校区内の文化財の説明を行った。 また、妻中学校生徒が授業で制作した古墳祭りのPR動画をエントランスで再生し、学習成果の発表の場とした。	3		・妻中学校生徒の発表の場、職場体験やインターシップ、実習の場と次世代を育む役割もしっかりと担っていると感じます。 ・学芸員や展示解説員による学術的、専門的な展示解説をもっと利用してもらうため、興味を引くような広報をお願いしたい。		
	教育研究会等の各種事業を支援したか。	—	英語弁論大会や教育研究会等の会場としてホールを貸し出し、求めに応じて展示解説等を行った。	3		・小学生にとって、埴輪や勾玉づくりなどの活動は楽しんで取り組めるが、館内の展示物の理解は難しいようだ(中高生には理解できると思われる。)		

	職場体験、インターンシップ、博物館実習等を積極的に受け入れたか。	—	職場体験は中学生5人、インターンシップは高校生3人、専門学校生6人を受け入れた。博物館実習については受入れ申請は無かった。	3		
--	----------------------------------	---	---	---	--	--

(5)情報発信

項目	内 部 評 価					外 部 評 価		*評価の()は前年度
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評 価 意 見	評価	
広報活動の充実	報道機関への情報提供回数	年20回以上	24回実施。20周年記念企画等が実施されたこともあり、目標値を上回った。	3	3.4	・情報発信について、若い世代向けにInstagramやXにも挑戦してはどうでしょうか。 ・SNSの活用、ホームページの更新の成果が出ていると感じる。 ・3月に、九州国立博物館のはにわ展を鑑賞した。子持家型埴輪、船形埴輪が展示されており、改めて西都原を誇りに感じた。東京でも大人気だったようなので、大規模展と絡めた発信もどんどん仕掛けていってほしい(すべて追えていないので見逃しているかもしれません)。 ・報道をしっかりと活用されていることが伝わってきました。よく見聞きました。ホームページを活用しての情報発信も軌道に乗り出していると感じます。皆さんのご尽力あってのことと思います。 ・メディアを活用した取組が効果を上げる一方、ホームページの積極的な更新によりアクセス数が目標を上回るなど結果につながっている。 ・情報発信について、基本的にはホームページ、Facebookともに内容も更新回数も期待以上です。時々パノラマで見る西都原古墳群で楽しんでおります。是非Instagramも取り入れて、毎日の情報に「今日の展示案内の有無～ボランティアガイドさんの横顔」など入れて下さい！ ・HPの更新回数を増やしたり、ちらしやポスターの配布を充実させるなど、情報発信の努力が伺える。	3.5 (3.4)	
	博物館の利用者を増やすために、様々な広報媒体を使って、館の情報発信を行ったか。	—	Facebookについては、年160回更新するなど当館の活動を発信したほか、雑誌やテレビ取材への協力を行った。	4				
	各市町村教育委員会や各社会教育施設等へ博物館の利用を働きかけたか。	—	県内各市町村教育委員会や図書館、公民館などの社会教育施設へのポスター・チラシなどの配布を行い、利用の働きかけを行った。	3				
	観光事業団体等との連携による誘客に取り組んだか。	—	県や西都市観光協会へポスター・チラシなどの配布を行った。大型商業施設イオン宮崎で特別展を紹介するポスター掲示を行った。	3				
博物館ホームページ等の充実	ホームページ更新回数	年48回以上	年間通して当館ホームページを158回更新し、「総訪問者数」は149,037件で、過去9年間で最高を記録した。	4				

(6)経営

項目	内 部 評 価					外 部 評 価		*評価の()は前年度
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評 価 意 見	評価	
県民からの意見反映	アンケート収集件数	年1, 200件以上	1,110件。目標値をわずかに下回った。今後来館者の意見聴取に努めていきたい。	2	2.9	・アンケート収集件数が1110件ということで、前年度(1135件)より下回っており、サンプル数も少ないのが残念である。ただ、満足度の実績値が87. 6%と、前年度より向上している。総合博物館と同様に、入館者の「やや不満」「大いに不満」という声をしっかり受け止め、展示や情報発信の工夫・改善に生かしてほしい。 危機管理体制において、心肺蘇生法の実技訓練の実施は評価できる。今後も不審者の侵入や様々な事態を想定した訓練の実施を望む。 ・ボランティアガイドの高齢化が課題ということについて、ボランティアは館の応援団なので、引き続き確保、養成に努めていただくとともに、個人の来館者向けに音声ガイドも検討してはいかがかと思います。 ・アンケートの分析は今後の来館者増につなげるための重要なポイントだと思います。若年層の来館が増えたことは喜ばしいことで、博物館の皆さん方の努力の結果だと思います。満足度も向上していることも素晴らしいと思いますので、次年度以降も値をキープできるよう、努力を続けていただければと思います。より詳細な分析(クロス集計など)を行って、どういった傾向が見られるのか分析が必要ではないかと思います。例年コメントにもありますが、満足されなかった方の回答にどのような特徴があるのかを是非次年度は提示してください。	3.2 (3.1)	
	アンケート回答における満足度	「満足」80%以上	88%（「大いに満足」「概ね満足」の合計）。満足と回答した割合が前年度より増加したが、「展示室の暗さ」や「順路が不明瞭」などの指摘も見られた。	3				
	アンケート結果や博物館協議会等の意見を博物館活動や館運営に反映させているか。	—	展示室の通路や出口表示などの照明の調整を行い、視認度を上げるようにした。 展示室への導入スロープの入口に、展示のコンセプトや利用の方法について、館の考え方を示す説明パネルを設置した。	3				
県民等との協働	地域や県民等との連携強化を図り、新たな利用者の創出につなげたか。また、ボランティアガイドと連携し、活動を支援したか。	—	館の運営支援を地域のNPO法人に委託することにより、地域との連携を図っている。 ボランティアガイド向けの解説研修を定期的に行い、スキルアップに努めた。	3	2.9	・職員の資質向上について、『年報』を拝読したが具体的なことがよく分からなかった。公務員一般の研修にとどまらず、専門性を向上させることをめざした研修はどうだったのだろうか。また、宮崎県総合博物館のような外部資金獲得もめざされることを期待したい。 ・県民との協働が、多くのプログラムがあることに興味を持ちました。ただ、そのことが知られていないことに残念さを感じます。先日、古墳の解説のボランティアの方に案内をして頂きました。話の内容、また、当方の興味のあることへの解説も楽しめました。その中で、報告書にもありますが、20年経過して新しい方の参加が無く、だんだんと人員が減っているとのことでした。新規ボランティアの募集もボランティア組織内で行う事が主だと聞いています。勤務年齢の高齢化が進み、これまで定年退職後にその知識等を生かしていたボランティアが入りにくいことは分かりますが、古墳への興味を掘り起こして頂く、このボランティア組織を強化することを県の全体を通して取り組むことはできないでしょうか。このままですと、多くのボランティア組織のようにじり貧になるのではないかと懸念されます。初期のボランティア立ち上げ同様に取り組んで頂けないでしょうか。	3.2 (3.1)	
職員の資質向上	外部団体等の主催による研修等に参加したか。	—	宮崎県博物館等協議会、全国風土記の丘協議会などの研修会等に参加した。	3				
	館の実情や課題に応じて内部研修等を行ったか。	—	コンプライアンス関連や危機管理、人権問題についての館内研修を実施した。	3				

	研修の成果を館内の会議等で報告し、情報を共有したか。	—	参加した会議の内容をまとめ、復命することで館員への情報共有を図った。	3		・回答は、概ね満足という結果が出ている。今後回答数を増やす工夫をすることで、さらに満足度は上がると感じる。来館者が安心安全な利用ができるよう危機管理等を努力してくださっており、感謝している。展示内容の関係上、暗さは仕方ないと感じる。その分、案内パネル等の設置を工夫してくださり、ありがたい。
危機管理体制の強化	防災訓練、研修等の実施	年2回以上	8月から9月にかけて危機管理やコンプライアンス研修を実施し、全職員がレポートを提出した。2月には避難誘導、救命救急、消防の訓練を実施した。	3		・職員のコンプライアンス研修、危機管理研修など計画的に実施されていて評価します。
	危機管理マニュアルを全職員に周知し、必要に応じて改訂を行ったか。	—	マニュアルの一部見直しや更新を行い、全職員に周知を行った。	3		・アンケート結果により来館者の満足度が非常に高いことは大変素晴らしいこと。満足しなかった方の理由を聞く仕組みが必要では。
施設・設備の管理	施設、設備の維持改善の計画を策定しているか。また、改善が必要な箇所については、計画的に改修等を行っているか。	—	県の「営繕工事計画」に準拠し計画的に実施している。 令和6年度は、エレベーター、空調設備、消防設備等の修繕を実施した。	3		・これはおそらく西都市の管轄だとは思いますが、酒元の上横穴古墳群覆屋がいつまで経っても改修されないこと、111号墳(地下式横穴4号墓)のカメラが壊れたままなのは、西都原古墳群の魅力を減らしてしまいます。早く善処して頂きたいです。 ・アンケートの満足度が上昇しており、来館者の期待に応えているといえる。 ・内部評価では2.9となっているが、全体の活動内容や実績から考えて「4.」と評価した。
その他の意見	・ボランティアガイドさんによる展示案内解説があると聞いていたので、10月4日にうかがった際に受付で案内をお願いしたらガイドさんは不在でした。その日案内解説があるかどうかはガイドさんのご都合によるそうで、翌5日は4名いらっしゃるのお返事でした。展示案内についてホームページを確認したところトップページにはボランティアガイドの紹介はなく博物館の活動紹介をあげたらようやくそこに「西都原ボランティア協議会のご案内」として出てきて、紹介文の中に展示室の案内解説をしていると書かれているのを見つけました。この経験から私は普段気軽にガイドはお願いできないのだと実感しました。ガイド役はボランティアですから、案内して頂けるかどうかはボランティア会員さんのご都合優先なのは分かります。せめて希望者が利用しやすいようにホームページやFacebookを活用して工夫して、解説案内ができる日できない日をお知らせ頂けると親切だなと思いました。(もしかしたら私が見落としているだけで、すでに日々お知らせされているのかもしれませんが、普段は来館者のご希望通り展示案内ができていますのであれば、余計なことを申しました。私がたった一度の訪館で感じたことですので、どうぞお許し下さい。) ・ミュージアムショップを覗くのが楽しみです。オリジナルグッズも開発中とのこと、期待しています。展望ラウンジは、眺めもメニューもよいですが、臨時休業日等もホームページでわかるとよいと思います。 ・特別展や企画展などに際して製作・販売されている図録のうち、完売した図録はPDF化して博物館のホームページで公開したらどうだろうか？ ・博物館のホームページに「年報」と「研究紀要」はUPされたが、掲載数が限られている。総合博物館のように可能な限り掲載していただきたい。					